

この本のねらい／この本の構成について

第一章 戦いが終わつて——映画の中の帰還者たち 019

帰還者をめぐる文化的表象／映画の中の復員兵——『野良犬』／映画の中の引揚者——『黄色いからす』／遅れて帰還した者たちをめぐるイメージの変容——『私は貝になりたい』／心優しき破壊者——『馬鹿が戦車タンクでやつて来る』／メディア・イメージと個人の体験との相互作用

第二章 五味川純平と『人間の條件』——帰還できなかつた梶上等兵の物語 047

梶はなぜ戦後日本に帰ることを許されないのか／『人間の條件』と戦後日本／五味川純平の「戦後」までの足取り／もはや戦後ではない／知識人の良心としての梶／羊の番犬／軍隊内での抵抗／敗走そして美千子の生活／捕虜収容所そして脱走／日本人の、日本人による、日本人のための物語／映画『人間の條件』について

第三章

遅れて帰りし者たち——シベリア抑留と抑留者の戦後日本への帰還

089

七十万～八十万の抑留者と十万人以上の死／生存のための闘い／抑留経験者であることの心理的、あるいは存在論的状況／ソ連への怖れ、あるいはユートピアとディストピアのあいだで／元捕虜たちの終わりない努力

第四章

告発せず——石原吉郎のシベリア抑留体験とその内的な問い直し

125

遅れて到着する体験／シベリアでの経験／詩から散文へ／肉体と精神の葛藤／ペシミスト鹿野武一の勇気／人間のすこやかなあたたかさ／詩という呼びかけ／肉体の桎梏／石原吉郎の残したもの

第五章

英靈の生還——横井庄一をめぐる戦後日本の狂騒

171

一九七二年に発見された日本兵／グアムへの道／敗残兵としての生活／横井の選択／横井庄一と戦後日本／横井の出現と報道合戦／結婚そして参議院選挙出馬／

第六章 過去からの救出——元陸軍少尉小野田寛郎と戦後日本との確執

205

人間的な、あまりに人間的な「救出」までの長い道のり／投降の儀式／小野田は日本の敗戦を知っていたのか／「遊撃戦士」の誕生／命令を下したのは誰か／複雑怪奇な状況把握／小野田寛郎と「蜘蛛の糸」／その後の小野田寛郎

終 章

最後の「日本兵」の帰還——中村輝夫／スニヨン／李光輝の戦後

245

最後の「日本兵」中村輝夫／無関心なメディア／高砂族陸軍特別志願兵中村輝夫／衆人環視のなかのドラマ／マス・メディアという鏡／真夏の夜の夢／中村輝夫
という過剰さ／小さな歴史

註 271

あとがき

317

人名索引・事項索引

332